

「SANBE 親子合宿～生命の絆～」

1 趣 旨

特定の状況にある青少年が親子で寝食を共にしながらの合宿を通して、親子の触れ合いの心地よさや関わり合いの大切さに気づき、親子関係の修復を図り、対人関係の在り方を振り返る機会とする。

2 事業の概要

(1) 期間

令和6年11月6日(水)～11月7日(木)＜1泊2日＞

(2) 会場

国立三瓶青少年交流の家とその周辺

(3) 主催(受託者)

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立三瓶青少年交流の家
(少年法第25条による補導委託先)

(4) 委託者

中国地方の家庭裁判所

(5) 対象

特定の状況にある青少年とその家族

(6) 参加者

親子2組

(7) 日程・研修内容

【1日目：11月6日(水)】

12:30～12:45	集合・受付
12:45～13:30	開講式・日程説明・アイスブレイク
13:30～14:30	カローリング
14:30～15:30	ボルダリング
16:00～19:30	野外炊事
19:45～20:00	ふりかえり
20:00～22:00	入浴・フリータイム
22:00～	就寝

【2日目：11月7日(木)】

7:00～ 8:00	朝食(レストラン)
8:00～ 8:30	退所準備
8:30～11:15	バウムクーヘンづくり
11:15～11:50	ふりかえり
12:00～	解散

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア カローリングでは、親子と裁判所職員同士でチームに分かれて対抗戦を行い、作戦を考えたりアドバイスをし合ったりできるようにした。夜の野外炊飯では、交流の家職員や裁判所職員は補助に徹し、親子で作業する場面を多く作った。最後の活動であるバウムクーヘン作りでは、親子にほとんどの作業を委ねた。親子で協力できる活動を多く取り入れることにより、活動中の話し合いを促進し、それぞれふだんと違った一面を発見できる機会を提供した。また、活動を重ねるごとに、徐々に家族同士が関わる場面を増やすようにプログラムの配列を工夫した。

イ 1日の終わりに振り返りを行い、親子でお互いの良かった点や感謝の気持ちを共有しながら仲

を深める時間を取り入れた。

(2) 運営のポイント

ア 特定の状況にある青少年とその家族を対象とした事業であるため、参加者のプライバシー保護を重視し、利用者の少ない時期かつ他団体と関わることのない日程を選んで開催した。また、参加者と裁判所職員、交流の家職員は期間中ニックネーム(キャンプネーム)で呼び合うこととし、個人情報に関係者以外に漏れることのないように細心の注意を払った。

イ 11月実施で寒い中での活動だったため、事前に防寒対策を行うよう通知するとともに体調不良者が出たときに備えて防寒具や休憩所を用意し、野外炊飯やバウムクーヘン作りを実施した。

4 参加者の声

- チームで協力できるいいプログラムだった。
- 親子で楽しく過ごすことができた。

5 成果と課題

《成 果》

- 親子合宿を通して、親子の絆を深めることができた。最後のバウムクーヘン作りでは、親子で自然に関わり合い協力する場面を多く見ることができた。
- 中国地方で、1泊2日の日程で補導委託先として親子を受け入れている青少年教育施設は当所のみであり、今年度は他県の家庭裁判所からも参加があった。

《課 題》

- 松江家庭裁判所から「県外からも積極的に参加を呼びかけ、参加者を増やし事業をさらに盛り上げていきたい。」という要望がある。参加人数を増やした際でも、お互いのプライバシーを保護しながら事業が実施できるようにするため、運営体制を考えたい。
- 11月に実施する場合は、寒さ対策が必要である。

(担当：企画指導専門職 其山 佳裕)